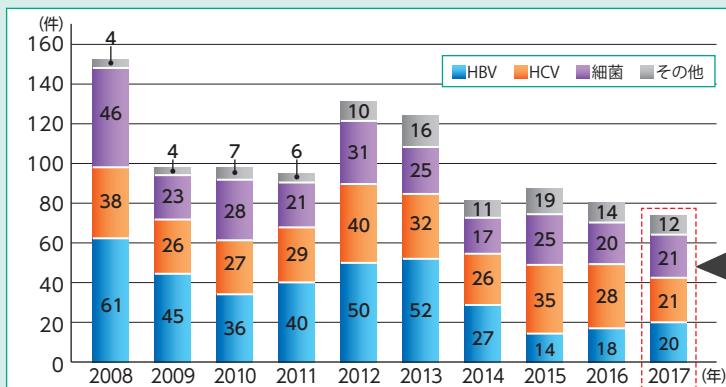




輸血用血液製剤との関連性が高いと考えられた感染症症例-2017年-

輸血によるウイルス等の感染が疑われ、2017年に医療機関から赤十字血液センターに報告された症例(自発報告)及び献血後情報に基づく遡及調査を行った症例の中で、献血血液の検体等にウイルス核酸や細菌が検出され、輸血による感染と特定された症例は、細菌3件、HBV1件、HEV4件でした。

輸血による感染の疑いとして赤十字血液センターに報告された症例数の推移と、2017年に報告された病原体別の症例数及びその解析結果



病原体	報告件数	特定
HBV	20	1
HCV	21	0
細菌	21	3
CMV	6	0
HEV	5	4
EBV	1	0
計	74	8

細菌感染が特定された3件は、いずれも血小板製剤によるものでした。HBV感染が特定された症例では、使用された製剤の個別NATは陰性でしたが、その後の献血時にHBVが陽性となり、遡及調査の結果判明しました。その他に分類したもののうち感染が特定されたものは、HEV4件のみでした。

症例概要(献血血液の検体等に病原体等が検出され、輸血による感染と特定された症例) - 2017年 -

細菌

● 自発報告: 輸血による細菌感染の疑いとして医療機関から報告された症例

症例No.	原疾患	輸血用血液製剤(採血年月)	年齢	性別	症状	発現時間(投与開始後)	輸血後の検査結果		転帰
							患者血液	輸血用血液製剤	
1	骨髄異形成症候群の転化	Ir-PC-LR (2017.3)	80代	男	悪寒戦慄、発熱、嘔吐、血圧変動、酸素飽和度低下	5時間	<i>Lactococcus garvieae</i>	<i>Lactococcus garvieae</i>	軽快
2*1	急性骨髄性白血病	Ir-PC-LR (2017.7)	10歳未満	女	戦慄、嘔吐、顔面蒼白、発熱、頻脈、酸素飽和度低下	20分	<i>Escherichia coli</i>	<i>Escherichia coli</i>	死亡
3	急性骨髄性白血病	Ir-PC-HLA-LR (2017.12)	30代	女	振戦、嘔吐、酸素飽和度低下、発熱、血圧低下	30分	<i>Klebsiella pneumoniae</i>	<i>Klebsiella pneumoniae</i>	回復したが後遺症あり

*1 症例概要を輸血情報1712-156「血小板製剤による細菌感染にご注意ください」に掲載しています。

細菌感染が疑われる場合の対応について

- ・細菌感染が疑われる症状が見られた場合には直ちに輸血を中止して適切な処置を行ってください。
- ・使用済み製剤バッグを適切に保管²⁾し、最寄りの赤十字血液センター医薬情報担当者までご連絡ください。
- ・使用済み製剤バッグの細菌培養試験の実施については、無菌的に検体採取が可能な場合をお願いします。
- ・細菌感染が疑われた場合は原因究明のために、使用済み製剤バッグをご提供ください¹⁾。

注) 輸血セットのクランプを固く閉め、輸血部門に返却をお願いします。その後、点滴筒の上下をチューブシーラーでシール(チューブシーラーがない場合は鉗子等で確実に結紮)し、バッグごとビニール袋に入れて清潔に冷蔵保管(冷凍は不可)してください。

HBV

● 献血後情報: 献血血液のスクリーニング検査の陽転化情報に基づく遡及調査により判明した症例

症例 No.	原疾患	輸血用血液製剤 (採血年月)	年齢	性別	輸血前		輸血後		ALT		転帰
					検査項目	検査結果	陽転項目	輸血からの期間	最高値 (IU/L)	輸血からの期間	
1	骨髄異形成症候群	Ir-PC-LR (2017.5)*2	70代	男	HBV-DNA HBs 抗原 HBs 抗体 HBc 抗体	陰性	HBV-DNA	6週	*3	*3	未回復

*2 当該献血はHBV-DNA陰性、2017年6月の献血時にHBV-DNA陽性 *3 ALTの上昇がない、または比較データがない

HEV

● 自発報告: 輸血によるウイルス感染の疑いとして医療機関から報告された症例

症例 No.	原疾患	輸血用血液製剤 (採血年月)	年齢	性別	輸血前		輸血後		ALT		転帰
					検査項目	検査結果	陽転項目	輸血からの期間	最高値 (IU/L)	輸血からの期間	
1	骨髄異形成症候群	Ir-PC-LR (2015.10)	60代	男	HEV-RNA	陰性	HEV-RNA IgA-HEV 抗体	2週 6週	341	6週	回復
2	急性骨髄性白血病	Ir-PC-LR (2017.1)	60代	女	HEV-RNA	陰性	HEV-RNA	15週	589	27週	回復
3*4	多発性骨髄腫	Ir-RBC-LR (2017.7)	80代	女	HEV-RNA IgM-HEV 抗体 IgG-HEV 抗体	陰性	HEV-RNA IgM-HEV 抗体 IgG-HEV 抗体	12週 13週 13週	679	11週	死亡

*4 症例概要を輸血情報1803-158「E型肝炎ウイルス(HEV)感染について」に掲載しています。

● 献血後情報: 自発報告症例No.2に基づく遡及調査により、同一献血者の前回献血由来の輸血用血液製剤を供給した医療機関から報告された症例

症例 No.	原疾患	輸血用血液製剤 (採血年月)	年齢	性別	輸血前		輸血後		ALT		転帰
					検査項目	検査結果	陽転項目	輸血からの期間	最高値 (IU/L)	輸血からの期間	
1	骨髄異形成症候群	Ir-PC-LR (2016.12)	70代	女	なし		HEV-RNA IgG-HEV 抗体	27週	36	19週	回復

輸血感染症(HBV, HCV, HIV)が疑われる場合の対応について^{1,2)}

	輸血前		輸血後		治療方針
	検査項目	検査結果	検査項目	検査結果	
HBV	HBs 抗原 HBs 抗体 HBc 抗体	いずれも陰性 [未感染]	3か月後に NAT	陽性 [急性感染]	早期治療が必要
		いずれか陽性 [キャリア又は感染既往]		陰性 [感染なし]	-
HCV	HCV 抗体 HCV コア抗原	いずれも陰性 [未感染]	1~3か月後に HCVコア抗原	陽性 [急性感染]	早期治療が必要
		HCV 抗体 → 陽性 [感染既往] HCV コア抗原 → 陰性		陰性 [感染なし]	-
	HCV 抗体 → 陰性 HCV コア抗原 → 陽性 [感染初期]			早期治療が必要	
	HCV 抗体 HCV コア抗原	いずれも陽性 [キャリア]			必要に応じて治療
HIV	HIV 抗体	陰性 [未感染]	2,3か月後に HIV抗体	陽性 ウエスタンブロット、 必要に応じてNAT	早期治療が必要 陰性 → -
		陽性 [確認検査] [キャリア]		陰性 [感染なし]	- 治療が必要

医師が感染リスクを考慮し、感染が疑われる場合などには、輸血前後の患者のウイルス関連マーカーの検査等を行います。検査結果の解釈は、左記〔「血液製剤等に係る遡及調査ガイドライン Q&A」より作成〕をご参照ください。

その他の輸血感染症が疑われた場合には、赤十字血液センター医薬情報担当者までご連絡ください。

参考資料: 1) 「血液製剤等に係る遡及調査ガイドライン」の一部改正について (平成30年3月22日薬生発0322第6号厚生労働省医薬・生活衛生局長通知)
2) 「輸血療法の実施に関する指針」及び「血液製剤の使用指針」の一部改正について (平成26年11月12日薬食発1112第12号厚生労働省医薬食品局長通知)

輸血用血液製剤の使用による副作用・感染症が疑われた場合には、直ちに赤十字血液センター医薬情報担当者までご連絡ください。また、原因究明のために、使用された製剤及び患者の検体等の提供をお願いすることがあります。なお、使用された製剤及び患者の検体は「血液製剤等に係る遡及調査ガイドライン」を参照のうえ保存してください。

〈発行元〉日本赤十字社 血液事業本部 技術部 学術情報課
〒105-0011 東京都港区芝公園1丁目2番1号

※お問い合わせは、最寄りの赤十字血液センター
医薬情報担当者へお願いします。

日本赤十字社 医薬品情報ウェブサイト
製品情報・輸血情報等についてはこちら

日本赤十字社 医薬品情報 